



ケンブンスイッチ

6月号



湿気も雨も太陽も、印刷物には要注意！

気温や湿度は、紙や印刷にも大きな影響があります。

JISで定めた紙の保管に適した温度湿度は、温度摂氏20度±2度、湿度65%±2%。これは東京だと5月と10月のわずかな期間しかありません。これより乾燥すると静電気が起きやすく紙はしなやかさを失い、湿度が多いと、紙はよれよれになりシワが寄りやすくなってしまいます。年中一定の印刷品質を保つには、適正な温度湿度がとても重要。一般的に用紙は印刷する直前に搬入されることが多いのですが、予め工場内の温度湿度が一定の場所で保管することで紙のトラブルを防ぎ、印刷工程の立ち上がりをスムーズにすることができます。

雨と直射日光も印刷物には大敵です。雨や紫外線にあたると、インキは次第に色褪せてくるからです。その指標を耐光性といいます。印刷で使われる4色のインキ、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックは、それぞれに耐光性が異なり、マゼンタとイエローが色褪せしやすい傾向にあり

ます。そのため、屋外掲示の印刷物は青黒い感じに退色していることが多く、選挙ポスターなどでは、それを避けるためマゼンタとイエローを耐光性の高いインキに変更して刷ることが多いのです。印刷物は、最終的にどのような環境で使われるかに気を配ることも大切なのですね。

